英文を読み解く

1 - 1

① (1) The leader had broken where the hook was tied to it. ② Nick took it in his hand. ③ He thought of the trout somewhere on the bottom, (a) holding himself steady over the gravel, far down below the light, under the logs, with the hook in his jaw.

① The leader had broken where the hook was tied to it.

- had broken と**過去完了**になっているのは、この場面の前にある「はりすが切れた」という描写を受けて、**「現時点よりも過去のこと」**を表すためです。break は、ここでは後ろに目的語がないので、「(ものなどが) 壊れる、切れる」という意味の**自動詞**として使われています。

- where the hook was tied to it の where は**関係副詞**です (→ 英文法で迫る)。釣り針がはりすとつながれていたところという意味です。

訳 はりすは釣り針が結ばれているところで切れていた。

② Nick took it in his hand.

- take O in one's hand は「O を手に取る、手でつまむ」という意味です。前置詞が in になることに注意しましょう。

訳 ニックはそれをつまみ上げた。

③ He thought of the trout somewhere on the bottom, holding himself steady over the gravel, far down below the light, under the logs, with the hook in his jaw.

- He thought of the trout ... は、**〈語り手による登場人物の思考の報告〉**という表現形式になっています (→ p.204 英文法が語ること)。この文は、ニックが川底に潜って逃げられた鱒の様子を見ているのではなく、頭の中で「たぶん、こんな様子だろう」と想像していることを表しています。このような表現が用いられることが〈3人称の語り〉の小説の特徴で、本来は知ることのできない**第三者の心の中を知ることができる**のです。語り手は、登場人物の心の中を描写する際に、thought などの思考を表す動詞を用いて、意識の内奥に迫ろうとします。したがって、**3人称の主語の後に思考を表す動詞が来た文に出会ったら、「これから登場人物の思考内容が描写される可能性があるな」と考えながら読むとよいでしょう。**

- somewhere on the bottom は、形容詞的に前の the trout を説明しています。
- holding himself steady over the gravel の himself は the trout を指しており、the trout がどんな様子で川底にいるのかを補足的に説明しています（→ ここに注意 ）。鱒が川の流れに負けないよう、その場でじっととどまっている様子を想像しています。
- far down below the light, under the logs は、somewhere on the bottom が具体的にどのようなところかを説明しています。

訳 彼は水面下のどこかにいる鱒のことを考えた。（その鱒は）砂利の上、丸太の下の光の届かないところに、顎に釣り針が刺さったままじっとしているのだ。

英文法で迫る

(1) where のはたらきに注意して日本語に直しましょう。

解答 **はりすは釣り針が結ばれているところで切れていた。**

研究 where が文中に出てきた場合、疑問詞なのか、それとも関係副詞なのかを考えます。ここでは、**先行詞のない関係副詞（自由関係副詞）**として使われています。自由関係副詞で始まる節には主に 4 つの機能がありますが（→ p.206 英文法が語ること ）、ここでは**副詞節**として機能しています。

ここに注意 (a) この holding の意味上の主語は何ですか？

解答 **the trout です。**

研究 holding himself steady ... は、川底にいる the trout の様子がどのようなものかを補足説明しています。この holding は、関係代名詞節 which was holding の which was が省略されたものと考えることもできますが、**分詞構文**としてとらえることもできます。その場合、意味上の主語の the trout が holding の前にないことに気づきます。これはなぜでしょうか。ここでは分詞構文として解釈することについて考えてみます。

主節の主語と分詞構文の意味上の主語が異なる場合、分詞の前に主語を置きますが（**独立分詞構文**→ p.206 英文法が語ること ）、**文脈から意味上の主語が何かを判断できる場合、意味上の主語を明示しないことがあります。**このような分詞構文を**〈懸垂分詞構文〉**と呼びます。懸垂分詞構文は、主語が何らかの知覚・認識をし、その結果、何かを発見したり気づいたりする文で使われることがあります。

この文では、主節の主語（He）と分詞構文の意味上の主語（the trout）が異なりますが、**文脈から hold しているのは鱒であることがわかるので、意味上の主語が明示されていない**のです。